

《せつ明文2》

文章をよく読み、何についてせつ明しているのかをりか
いした上で、問題をといていこう。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

ヤドカりは、エビやカニのなかまです。しかし、ヤドカ
リがほかのなかまとちがうところは、まき貝の中に体を入
れて、そこに住んでいることです。ヤドカりは、カタツム
リのように、生まれたときから貝をせおっているわけでは
ありません。ヤドカりは、生まれたときは両手がはさまに
なった、エビのようなすがたをしています。しかし、生ま
れるとすぐに、自分の体に合った貝をさがしはじめます。
貝を決めるときには、自分の手のはさみで貝の入り口をは
かって、体がきちんと入るかどうかをはんだんします。ぶ
じに育って貝が小さくなると、また次の貝をさがします。
そしてちょうどよいものが見つかるまでの貝をすてて、新
しい貝にうつり住みます。

この様子が、まるで人がかりていた宿をひっこして、新
しい宿にうつり住む様子にそっくりなので、「ヤドカリ」と
いう名がついたのです。

(問) —線部「ぶじに育って貝が小さくなる」とありますが、
これはどういうことですか。あとのア、エの中からえら
ぼう。

ア 貝の大きさが、ちぢんで小さくなってしまふ。

イ ヤドカリの大きさが、ちぢんで小さくなってし
まふ。

ウ ヤドカリが大きくなって、貝に入らなくなってし
まふ。

エ 貝が大きくなって、ヤドカリを食べてしまふ。

【答え】ウ

【かいせつ】

ヤドカりは、ぶじに育つと体が大きくなります。すると、
今まで使っていた貝では小さくて体が入らなくなってしま
うので「新しい貝にうつり住む」のです。そのため、答えは
ウになります。

【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

スーパーマーケットに行くとき、たくさんの野菜いや、肉、魚が売っています。しかし、そのほとんどは日本で作られたものではなく、海外からやってきたものです。たとえば、米はほとんどが日本で作られています。しかし、とうもろこしは日本ではほとんど作られていません。たいていはアメリカなどで作られたものが日本で売られています。ほかにも、なっとうやとうふをつくる原りよ^{だいず}うの大豆や、バナナなど、たくさんの野菜いやくだものが海外で作られています。日本にある食べ物は、海外で作られたものがたくさんあるのです。

(問) ー線部「日本にある食べ物」とありますが、ほとんどが日本で作られているものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア とうもろこし イ 米
ウ バナナ エ 大豆

イ 答え

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

こしょうなどのスパイスは、りょうりにかかすことのできないものの一つです。スパイスがなければ、みなさんのすきなチャーハンやピザ、ハンバーグも、どこか物足りない味になってしまいます。

今では当たり前に使われていますが、昔のヨーロッパの人は、スパイスを使っていませんでした。スパイスは、ヨーロッパから遠くはなれた暑い国でしかとることができず、人々はスパイスがあることを知らなかったのです。そのため、昔のヨーロッパの人々は、肉を食べるときは「しお」しか使っていませんでした。

しかし、あるヨーロッパ人がスパイスを外国で手に入れます。その人は、それを肉りょうりに使うと、とてもおいしいということに気づき、自分の国に持ち帰ったのです。

ヨーロッパにつたわったスパイスは、あつという間に大人気になりました。肉を食べることが多かった王様やき族たちは、こぞってスパイスをほしがりました。しかし、スパイスは外国にしかありません。かれらは、スパイスを売っている国まで船を出して、ヨーロッパまでスパイスを持ち帰ってきてもらおうと考えました。また、自分たちで使うだけでなく、そのスパイスをほかの国に高く売ることので、^③国をゆたかにできないかと考えた王様もたくさんいました。そのため、王様の命れいでたくさんの人が集められ、スパイスを買うための大きな船が何せきも作られました。^④それはとてもお金がかかりましたが、それでも王様たちはたく

さんの船に、スパイスを買いに行かせました。

ある国では、五せきの船に二百人も乗組員を乗せて遠い国までスパイスをもとめて出かけて行きました。ところが、旅を終えてぶじに自分たちの国に帰ってきたのは、ポロポロになった一せきの船と、十八人の乗組員だけでした。のこりの船や人は、みんなとちゅうであらしにあつてしずんだり、病気でなくなってしまうたのです。それだけたいへんな旅でも、みんなスパイスを買うために船を出すことをやめませんでした。なぜなら、王様の考えた通り、スパイスはほかのヨーロッパの国に売ること、^⑤たくさんのお金をもうけることができたからです。当時、スパイスひとふくろは、同じ重さの金ひとふくろと交かんされていたそうです。

(一) — ①線部「スパイスを使っていませんでした」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア スパイスの味がすきではなかったから。
- イ ヨーロッパにはスパイスがなかったから。
- ウ スパイスはしおにくらべて安かったから。
- エ ハンバーグを食べていなかったから。



(2) — ②線部「外国」とありますが、これと同じ意味の言葉を、これより前の文章から十六字でぬき出そう。

(3) — ③線部「国をゆたかにできないか」とありますが、その方ほうとは何ですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア スパイスをほかの国に売る。
- イ スパイスを自分の国で売る。
- ウ スパイスをほかの国から買う。
- エ スパイスをほかの国からうぼう。

(4) — ④線部「それ」が指しているものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア スパイスをほかの国からうぼうこと。
- イ スパイスをほかの国に売ること。
- ウ スパイスを自分の国で売ること。
- エ スパイスをかうために船をつくること。

(5) — ⑤線部「たくさんのお金をもうけることができた」とありますが、当時スパイスひとつくらはどのくらいかねだんでしたか。本文中から十一字でぬき出そう。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

昔は、人のかっこうを見れば、その人が日本の東に住んでいる人か、西に住んでいる人かがすぐにわかったといいます。顔のつくりはたいしてかわりません。それなのに、なぜそうしたことがわかったのでしょうか。

それは、同じ日本国内でも、東と西ではおしゃれの仕方が全くちがったからです。東の方では、たとえお金持ちであつても、高い着物や持ち物を見せびらかすように歩いていては「本当のお金持ち」とみとめてもらえなかつたそうです。人から見えないようなところにまでお金をかけることこそ、本当のお金持ちやおしゃれな人がすることと考えられていたのです。そのため東の方では、みんな黒や茶色などの地味な色の着物を着ていました。しかしそれらは、実はとても高いぬのでつくられていたり、うら地に赤などはでな色を使つていたりしたものが多かつたそうです。また、いろいろとかざりたてるよりも、そのままの美しさがいいとされたため、女の人あまりおけしやうをしなかつたといひます。

一方、西の方では全くぎやくで、人前に出るときこそせいいっぱいのおしゃれをしないと、相手にしつれいであるどされていひました。そのため外に出るときは、女の人ばかりならずおけしやうをして、着物もきれいな色を使ったものを多く身につけていたといひます。

今はデパートもたくさんあり、どこでも自分のすきな服が買えるようになりひました。東西で売っている服がちがう

などといひこともありません。しかし、服をつくる会社の人によると、今でも西と東では、人気のある服がちがううです。東では黒や茶色で「かっこいい」感じの服が売れ、西の方ではあわい色の「女らしい」服の方が、人気があるうです。

昔の東西での服のちがいは、今でものこっているのかもしれませんが。

(1) ①線部「その人が日本の東に住んでいる人か、西に住んでいる人かがすぐにわかつた」とありますが、それはなぜですか。あとのア、エの中からえらぼう。

- ア 東と西では人の顔立ちがちがうから。
- イ 東と西ではかみの色がちがうから。
- ウ 東と西ではおしゃれの仕方がちがうから。
- エ 東と西では言葉の使い方がちがうから。

(2) ②線部「本当のお金持ちやおしゃれな人」とありますが、東の方では、そのような人たちはどんなことをするど考えられていひましたか。本文中から二十四字でぬき出そう。

(3) — ③線部「それら」が指すものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 高い着物 イ 高い持ち物
ウ 安い着物 エ 地味な色の着物

(4) — ④線部「全くぎやく」とありますが、何とくらべて全くぎやくなのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 東の人のおしゃれ
イ 西の人のおしゃれ
ウ お金持ちのおしゃれ
エ きれいな色の着物

(5) — ⑤線部「今でもものこっているのかもしれない」とありますが、筆者がそう思った理由は何ですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア 今でもデパートでは東西でちがうものを売っているから。

イ 今でも東西で人気のある服がちがうから。

ウ 今でも自分の好きな服はなかなか買えないから。

エ 今でもきれいな色の服は売っていないから。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

こしようななどのスパイスは、りょうりにかかすことのできないものの一つです。スパイスがなければ、みなさんのすきなチャーハンやピザ、ハンバーグも、どこか物足りない味になってしまいます。

今では当たり前前に使われていますが、昔のヨーロッパの人は、スパイスを使っていませんでした。スパイスは、ヨーロッパから遠くはなれた暑い国でしかとることができず、人々はスパイスがあることを知らなかったのです。そのため、昔のヨーロッパの人々は、肉を食べるときは「しお」しか使っていませんでした。

しかし、あるヨーロッパ人がスパイスを外国で手に入れます。その人は、それを肉りょうりに使うと、とてもおいしいということに気づき、自分の国に持ち帰ったのです。

ヨーロッパにつたわったスパイスは、あつという間に大人気になりました。肉を食べることが多かった王様やき族たちは、こぞってスパイスをほしがりました。しかし、スパイスは外国にしかありません。かれらは、スパイスを売っている国まで船を出して、ヨーロッパまでスパイスを持ち帰ってきてもらおうと考えました。また、自分たちで使うだけでなく、そのスパイスをほかの国に高く売ることので、国をゆたかにできないかと考えた王様もたくさんいました。そのため、王様の命れいでたくさんの方が集められ、スパイスを買うための大きな船が何せきも作られました。それはとてもお金がかかりましたが、それでも王様たちはたく

さんの船に、スパイスを買いに行かせました。

ある国では、五せきの船に二百人も乗組員を乗せて遠い国までスパイスをもとめて出かけて行きました。ところが、旅を終えてぶじに自分たちの国に帰ってきたのは、ポロポロになった一せきの船と、十八人の乗組員だけでした。のこりの船や人は、みんなとちゅうであらしにあつてしずんだり、病気でなくなってしまうたのです。それだけたいへんな旅でも、みんなスパイスを買うために船を出すことをやめませんでした。なぜなら、王様の考えた通り、スパイスはほかのヨーロッパの国に売ることので、たくさんのお金をもうけることができたからです。当時、スパイスひとつふくろは、同じ重さの金ひとつふくろと交かんされていたそうです。

(一) — ①線部「肉を食べるときは『しお』しか使っていませんでした」とありますが、それはなぜですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア スパイスの味がすきではなかったから。
 イ スパイスは「しお」にくらべて安かったから。
 ウ ハンバーグやチャーハンを食べていなかったから。
 エ ヨーロッパにはスパイスがなかったから。



(2) —②線部「自分の国」とありますが、それはどこですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア ヨーロッパ
- イ アメリカ
- ウ アジア
- エ 暑い国

(3) —③線部「かれら」とは、だれのことですか。本文中から二人ぬき出そう。

(4) —④線部「王様の命れい」とありますが、それはどんなことでしたか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア スパイスを売りに行かせること。
- イ スパイスを買に行かせること。
- ウ スパイスを日本へもって行かせること。
- エ スパイスを暑い国に返^{かえ}しに行かせること。

(5) —⑤線部「ボロボロになった一せきの船と、十八人の乗組員だけ」とありますが、なぜこれしか帰ってこなかったのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア ほかはみんな、旅がこわくてにげだしてしまっただから。
- イ ほかはみんなあらしでしずんだり、病気でなくなったりしたから。
- ウ ほかはみんな、外国でくらしはじめたから。
- エ ほかはみんな、王様のことがすきではなかったから。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

昔は、人のかっこうを見れば、その人が日本の東に住んでいる人か、西に住んでいる人かがすぐにわかったといひます。なぜなら、同じ日本国内でも、東と西ではおしゃれの仕方が全くちがったからです。

東の方では、たとえお金持ちであっても、高い着物や持ち物を見せびらかすように歩いていては「本当のお金持ち」とはみとめてもらえなかったそうです。人から見えないようなどころにまでお金をかけることこそ、本当のお金持ちやおしゃれな人がすることと考えられていたのです。そのため東の方では、みんな黒や茶色などの地味な色の着物を着ていました。しかしそれらは、とても高いぬのでつくられていたり、うら地に赤など、はでな色を使っていたものが多かったそうです。また、いろいろとかざりたてるよりも、そのままの美しさがいいとされたため、女の人はあまりおけしやうをしなかつたといひます。

一方、西の方では全きぎやくで、人前に出るときこそせいっぱいのおしゃれをしていました。そうしないと相手にしつれいであるとされてきました。そのため外に出るときは、女の人はかならずおけしやうをして、着物もきれいな色を使ったものを多く身につけていたといひます。

今はデパートもたくさんあり、どこでも自分のすきな服が買えるようになりました。東西で売っている服がちがうなどということもありません。しかし、服をつくる会社の人によると、今でも西と東では、人気のある服がちがう

うです。東では黒や茶色で「かっこいい」感じの服が売れ、西の方ではあわい色の「かわいい」服の方が人気があるそうです。もしかしたら、昔の東西での服のちがいは、今でものこっているのかもしれませんが。

(1) ①線部「見せびらかす」とありますが、これはどのような様子を表していますか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 高い着物や物を持って、はずかしそうな様子。
- イ 安い着物や物しかなくて、悲しい様子。
- ウ 高い着物や物をもって、とくいげな様子。
- エ 安い着物や物をもって、うれしそうな様子。

(2) ②線部「それら」が指しているものを、本文中から十四字でぬき出そう。

--	--



(3) —③線部「女の人はあまりおけしようにをしなかった」とありますが、これはどこの人のことを指していますか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 東の女の人
- イ 西の女の人
- ウ 日本の女の人
- エ 外国の女の人

(4) —④線部「女の人はかならずおけしようにをして、着物もきれいな色を使ったものを多く身につけていた」とありますが、なぜそうしていたのですか。次の空らんにあてはまる言葉を、本文中からぬき出そう。

と考えられていた

(5) —⑤線部「今でも西と東では、人気のある服がちがう」とありますが、どのようなちがいがあるのですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

- ア 東はかわいい服に人気があり、西は地味な服が人気である。

- イ 東は地味な色の服に人気があり、西はあわい色の服が人気である。
- ウ 東はカッコいい服に人気があり、西は地味な色の服が人気である。
- エ 東ははでな色の服に人気があり、西はあわい色の服が人気である。



(2) — ②線部「そのため」が指しているものを、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 「かっけ」はいなかに帰るとなおってしまうこと。
- イ 「かっけ」は都会に行くとなおってしまうこと。
- ウ 「かっけ」は、白米を食べるとなおってしまうこと。
- エ 「かっけ」は、つかれるとなりやすい病気だということ。

(3) — ③線部「茶色いお米」とありますが、これは白米とどううちがうのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア 白米とちがうしゆるいからできたお米。
- イ 白米とちがいよけいな部分を取りさらないお米。
- ウ 白米とちがいよけいな部分を取りさったお米。
- エ 白米とちがい味や色が良いお米。

(4) — ④線部「取りさってしまふよぶんな部分」とありますが、そこには何がふくまれていますか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア ビタミンC
- イ ビタミンA
- ウ ビタミンB1
- エ ビタミンB2

(5) — ⑤線部「ビタミンB1」とありますが、これはどういうはたらきをするビタミンですか。あとのア～エの中からえらぼう。

- ア お米の色や味をよくするはたらき。
- イ 体をきちんと動かせるはたらき。
- ウ 目をよくするはたらき。
- エ きおく力を高めるはたらき。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

昔は「かっけ」という病気がありました。「かっけ」にかかると、足がしびれて、思うように動かせなくなり、やがて足の感かなくなると、ついには全く動けなくなってしまう病気です。当時は、なぜその病気になるのか理由がわからなかったため、とてもおそれられました。

ところがこの病気には、ふしぎなところがありました。まず、この病気にかかる人は、都会に住んでいる人、あるいは、いなかから都会に出てきた人ばかりだったのです。そして、都会をはなれてふたびいなかでくらすと、すぐに病気がなおってしまうのです。そのため当時は、「なれない都会に出てきてつかれてしまったのではないか」とか「食べ物合わなかったのではないか」といわれていました。長年、病気のげんいんがわからなかった「かっけ」ですが、なぜこれになるのかを科学てきに調べた人がいます。それが鈴木梅太郎です。

梅太郎は、都会といなかのちがいを調べるうちに、あることに気がつきました。それは、お米のちがいです。都会では、白米を食べています。今、みなさんが食べている白いごはんも白米です。一方、いなかでは茶色いお米を食べていました。この二つは同じお米ですが、白米は茶色いお米から、よぶんな部分を取りさってきれいにしたものです。よぶんな部分を取りさることで味や色はともよくなりません。ところが、「かっけ」になる人は白米を食べる人ばかりだったのです。梅太郎は、この取りさってしまうよぶんな

部分にこそ、「かっけ」をなおすえいようがふくまれているのではないかと考え、研究をつづけました。そして、かれの研究によって、茶色い米には白米には少ないビタミンB1というせい分が、たくさんふくまれていることがわかりました。このビタミンB1は、体を動かすためにひつようとされる大切なえいようです。そのため、都会に出てくると白米ばかりを食べてしまうために、体の中のビタミンB1がへり、「かっけ」になってしまったのです。だから、いなかへ帰るとビタミンB1が多くふくまれている茶色い米を食べるため、すぐに病気がなおったというわけなのです。

(一) — ①線部「ふしぎなところ」とは、どんなところですか。あとのア、エの中からえらぼう。

ア 「かっけ」は白米を食べている人はかからず、いなかの人だけがかかるところ。

イ 「かっけ」は都会にいる人だけがかり、いなかへ帰ればなおるところ。

ウ 「かっけ」は都会の人だけがかり、一度かかるとなおらないところ。

エ 「かっけ」は食べ物合わな、いなかの人だけがかかるところ。





(2) — ②線部「あること」とは、どんなことですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 都会では白米を食べ、いなかでは茶色い米を食べ
ていること。

イ 都会の方がおいしく、えいようのある米を食べて
いること。

ウ 都会といなかでは、食べているフルーツがちがう
こと。

エ いなかの方が「かけ」にかかる人が多いこと。

(3) — ③線部「取りさってしまふよぶんな部分にこそ、『かけ』をなおすえいようがふくまれていたのではないか」とありますが、なぜ梅太郎はそう考えたのですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 「かけ」にかかるのはいなかの人だけだったから。

イ 「かけ」は米を食べていない人がかかる病気だから。

ウ 「かけ」になるのは、茶色い米を食べている人だ
から。

エ 「かけ」にかかるのは白米を食べている人だから。

(4) — ④線部「白米には少ない」とありますが、それはなぜですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 白米は、もともとビタミンB1の少ないしゆるい
の米だから。

イ 白米は、茶色い米より色もよく、おいしいから。

ウ 白米は、ビタミンB1の入っている部分を取りさつ
たものだから。

エ 白米は、みんなが食べているごはんだから。

(5) — ⑤線部「体の中のビタミンB1がへり」とありますが、それはなぜですか。あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 都会ではビタミンB1の少ない白米を食べるから。

イ ビタミンB1は体によくないせい分だから。

ウ ビタミンB1は都会でしか取ることができないから。

エ ビタミンB1は食べ物の中にはふくまれていない
から。